

令和 7 年度事業報告

I.事業の状況

1.奨学事業

(1) 外国人留学生に対する奨学事業

1) 第 24 期奨学生の選考及び決定

- ・ 令和 7 年 4 月 24 日開催の選考委員会にて、指定 24 大学推薦の奨学生候補者について審査の結果、下表のとおり、一般奨学生 30 名（学部 14 名、修士 16 名）、特別研究奨学生 3 名の計 33 名を新規に採択。
- ・ 令和 7 年 5 月 2 日、理事会はみなし決議にて、第 24 期小林奨学生として決定し、それぞれの大学に通知。
- ・ 令和 7 年度（第 24 期）の奨学生は、新規 33 名・継続 37 名計 70 名。

(内訳)

種 別		新規採択者	前年度からの継続者	計
一 般 奨 学 生	学 部	14	7	21
	大学院	16	20	36
特別研究奨学生	学 部	0	0	0
	大学院	3	10	13
計		33	37	70

2) 奨学金の支給

ア. 奨学金贈呈式

- ✓ 令和 7 年 6 月 6 日贈呈式（リーガロイヤルホテル大阪）

イ. 奨学金の支給

- ✓ 一般奨学金（学部生月額 15 万円、大学院生月額 18 万円）、特別研究奨励金（月額 20 万円）をそれぞれ 4 月から 1 年間支給。

・・・計 143,520,000 円

(2) 日本人学生に対する奨学事業

1) 医学部生育成支援プログラム第 3 期生の選考及び決定

- ・ 令和 7 年 8 月 7 日開催の選考委員会（Zoom 開催）にて、指定 4 大学推薦の候補者について審査の結果、合計 7 名（東北大学 2 名、東京大学 2 名、京都大学 1 名、大阪大学 2 名）を採択。
- ・ 令和 7 年 8 月 18 日、理事会はみなし決議にて、医学部生育成支援プログラムの第 5 期生として決定し、それぞれの大学に通知。
- ・ 令和 7 年度（第 5 期）の医学部生育成支援プログラムは新規 7 名・継続 22 名の計 29 名（留学中の 1 名は令和 7 年 4 月支給のみ）。

2) 奨学金の支給

ア. 奨学金贈呈式

- ✓令和7年9月21日贈呈式（リーガロイヤルホテル大阪）

イ. 奨学金の支給

- ✓奨学生に対し、月額20万円をそれぞれ4月から1年間支給。

・・・計69,800,000円

(3) 学業に関する報告及び生活状況報告

- ・令和8年3月、奨学生（外国人留学生）に、勉学の状況・成果の報告、生活状況報告を依頼。
- ・また、令和8年3月、医学部生育成支援プログラムによる第1期生から第5期生にも、学業報告及び成績証明書の提出を依頼。

2. 交流活動事業等

(1) 奨学生交流会

- ・奨学生交流会を、財団役員、評議員及び選考委員の出席にて、次のとおり開催。

第1回 令和7年6月6日 第24期贈呈式・交流会

第2回 令和8年3月4日 第24期終了式・交流会

第3回 令和8年3月11日～12日 1泊2日の研修旅行（飛騨高山・白川郷）

医学部生 令和7年9月21日 第5期贈呈式・交流会

(2) 「翼」の発行

- ・奨学生相互間、奨学生と財団間の交流に資するための交流誌「翼」第24号を令和8年3月31日に刊行。

3.研究支援事業

(1) 研究助成事業

- ・ 公募期間：令和 7 年 8 月 13 日～9 月 27 日
- ・ 令和 7 年 12 月 4 日開催の選考委員会において以下 44 件を採択。
- ・ 令和 7 年 12 月 28 日、理事会はみなし決議にてこれらを研究助成受給者として決定し、各研究代表者に通知。

(単位：百万円)

No	氏名	所属機関	職名	研究テーマ	金額
1	中山 恒	旭川医科大学 医学部	教授	なぜスリランカではがんの発症が少ないのか？—セイロンカレーに秘められた抗がん作用の謎に迫る—	10
2	筏井 宏実	北里大学 獣医学部獣医学科	教授	東部インドネシア地域における未開拓の微生物資源からの天然化合物探索および情報基盤の構築	10
3	沼田 朋大	秋田大学大学院 医学系研究科	教授	漢方薬・生薬の分子機序解明と炎症制御に基づく新規治療・予防戦略の創出	10
4	稲垣 毅	群馬大学 生体調節研究所	教授	鉄によるエピゲノム記憶の書き換えと老化調節	10
5	山内 祥生	東京大学大学院 農学生命科学研究科	教授	イソプレノイドによる選択的オートファジーの制御機構と組織恒常性の解明	10
6	中島 健一朗	名古屋大学 生命農学研究科	教授	脂質嗜好性を選択的に高める神経細胞・神経ネットワークの解明	10
7	松村 浩由	立命館大学 生命科学部 生物工学科	教授	病原性細菌の細胞分裂装置の分子メカニズムの解明と阻害剤開発	10
8	野田 岳志	京都大学 医生物学研究所	教授	エボラウイルス増殖機構の構造学的解明と構造基盤に基づく創薬開発研究	10
9	川合 智子	岡山大学 学術研究院	研究 准教授	植物由来物質による精子活性化作用およびそのメカニズムの検討	10
10	今村 拓也	広島大学大学院 統合生命科学研究科	教授	薬効・毒性を簡便に計測するためのヒトモデル動物開発の基盤構築	10
11	矢崎 亮	九州大学 高等研究院	准教授	非天然アミノ酸導入中分子ペプチドを用いた次世代抗がん剤創出	10
12	田岡 洋介	宮崎大学 農学部農学科	教授	分子生物学および代謝学的手法を用いたコイ速醸魚醤によるがん細胞抑制メカニズムの解明	10
13	原 英樹	旭川医科大学 医学部	教授	病原体を標的としない、薬剤耐性菌治療薬の創出	5
14	上杉 祥太	岩手大学 農学部食料農学科	准教授	雑穀未利用加工残渣が有する抗アレルギー作用の解明と機能強化技術の創出	5

15	吉戒 直彦	東北大学大学院 薬学研究科	教授	未踏の糖様分子を拓く三次元分子構築 戦略の創出	5
16	平間 崇	東北大学 臓器移植医療部	講師	高リスク肺移植レシピエントにおける 抗 CMV 薬予防戦略の薬学的最適化	5
17	中村 修一	東北大学大学院 工学研究科	准教授	光で活性化する病原体－細菌の光応答 性から切り拓く新たな感染制御戦略－	5
18	藤田 香里	秋田大学大学院 理工学研究科	講師	ヒト抗老化因子 $\Delta 133p53\alpha$ を発現誘導す る創薬シーズの探索とヒトの加齢を模倣 した完全ヒト化 p53 マウスでの検証	5
19	木下 奈都子	筑波大学 生命環境系	助教	植物センサーによる空气中アルデヒド の可視化によるアレルギー疾患の予防	5
20	山口 憲孝	千葉大学大学院 薬学研究院	准教授	キナーゼ阻害剤による骨格筋再生を介 した筋ジストロフィー治療薬の開発	5
21	梅澤 夏佳	東京科学大学大学院 医歯学総合研究科	講師	ヒト臍帯由来間葉系間質細胞を用いた 特発性炎症性筋疾患等の難治性自己免 疫疾患に対する実用化研究	5
22	五十嵐 正樹	東京大学医学部 附属病院 糖尿病・代謝内科	講師	SGLT2 阻害薬による腸管を介した糖 尿病合併症制御機構の解明	5
23	井上 聡	慶應義塾大学 医学部 先端医科学研究所	特任 准教授	抗がん剤と CAR-T 細胞との併用治療 法による個別化精密治療の実現	5
24	生田 達也	慶應義塾大学 医学部	専任 講師	GPCRome 活性評価技術を用いた漢方 薬作用機序の網羅的解明と科学的根拠 の創出・体系化	5
25	栗岡 隆臣	北里大学 医学部耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	講師	TRPV4 阻害による蝸牛ダイナミック ス制御を基盤とした薬剤性難聴の革新 的治療戦略	5
26	秦 猛志	東京科学大学 生命理工学院	准教授	環境調和型分子変換を用いたヘテロ環 構築と生理活性化化合物の効率的創製	5
27	DOUGNON Godfried	新潟大学 脳研究所	助教	一次繊毛機能異常が媒介する ADHD 及び ASD 共通病態の解明：ゼブラフ イッシュとマウスを用いた研究	5
28	岩淵 禎弘	金沢大学 医薬保健研究域	准教授	天然由来成分を用いた潰瘍性大腸炎モ デルにおける抗炎症作用の比較解析	5
29	今道 力敬	福井県立大学 海洋生物資源学部	准教授	低酸素誘導因子 (HIF) 活性化を標的 とした水産食品成分の探索と炎症性腸 疾患治療への応用	5
30	木下 真直	山梨大学 医学域皮膚科学	学部内 講師	重症薬疹における血清・尿 NGAL を 検出する迅速診断キット開発	5
31	辻 翔平	岐阜薬科大学 機能分子学	助教	がん幹細胞の新規可塑性制御因子の探 索	5
32	河下 映里	京都薬科大学 病態薬科学	助教	新生児低酸素性虚血性脳症における神 経保護・再生薬開発に関する基盤研究	5
33	原田 直樹	大阪公立大学大学院 農学研究科	准教授	食品および生薬成分の作用標的の同定 とその機能	5

34	及川 大輔	大阪公立大学大学院 医学研究科	准教授	肝疾患病態を制御する新規 MAPK ス カフォールド機構の解明	5
35	村上 真理	大阪大学大学院 医学系研究科	助教	脂質認識を軸とした腸管免疫制御機構 の解明	5
36	小河 浩太郎	大阪大学大学院 医学系研究科	助教	多層オミクス情報と GWAS 統合解析 による多発性硬化症のゲノム創薬	5
37	稲木 美紀子	兵庫県立大学大学院 理学研究科	教授	1 型ミオシンによる細胞および器官の 左右非対称性の形成機構	5
38	辻 憲二	岡山大学 学術研究院	助教	腎臓オルガノイドを用いた医薬品に対 する臨床応用可能な安全性評価法の開 発	5
39	森岡 徳光	広島大学大学院 医系科学研究科	教授	脊柱管狭窄症における難治性疼痛に対 する新規治療薬の創製に向けた基礎研 究	5
40	吉田 優哉	九州大学大学院 薬学研究院	助教	右心不全時の分子時計再定義機構の解 明とイヌガヤ葉抽出物の効果検証	5
41	田村 友和	九州大学大学院 医学研究院	准教授	デング熱病態を駆動するウイルス変異 と宿主免疫応答変動の分子基盤	5
42	野口 東美	長崎大学 医歯薬学総合研究科	助教	クマザサ抽出液による口蓋裂マウスモ デルへのマイクロ RNA を介した治療 効果と有効成分の解析	5
43	岡 香織	熊本大学大学院 生命科学研究部	助教	最長寿・がん化耐性齧歯類ハダカデバ ネズミにおいて過度の炎症を防ぐメカ ニズムの解明	5
44	柏谷 英樹	鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科	講師	香気誘発性鎮痛の中枢神経回路の同定	5

・・・計 280,000,000 円

(2)顕彰事業（小林賞）→休止

II.処務の概要

1.会議等に関する事項

(1) 理事会

月日	議 事 事 項	会議の結果
令和7年5月2日 (決議の省略)	1.令和7年度(第24期)奨学生の決定について	全会一致で承認・可決
令和7年6月6日	1.令和6年度事業報告及び収支決算について	全会一致で承認・可決
	2.職務執行状況の報告について(報告)	報告事項
令和7年6月23日 Google Meet 開催	1.理事長・副理事長・常務理事の選定について	全会一致で承認・可決
	2.財務・人事担当理事の指名について	全会一致で承認・可決
	3.新規業務委託先の選定について	全会一致で承認・可決
	4.事務局長の任免について	全会一致で承認・可決
	5.事務処理規程の改訂について	全会一致で承認・可決
	6.令和7年度顕彰事業「小林賞」の延期について	全会一致で承認・可決
令和7年7月4日 (決議の省略)	1.従たる事務所(東京都港区)の移転について	全会一致で承認・可決
令和7年7月20日 (決議の省略)	1.従たる事務所の移転について(費用)	全会一致で承認・可決
令和7年8月18日 (決議の省略)	1.医学部生育成支援プログラム(第5期生)奨学生の決定について	全会一致で承認・可決
令和7年11月15日 (決議の省略)	1.令和7年度事業計画及び収支予算の修正について	全会一致で承認・可決
	2.評議員選定委員の選任について	全会一致で承認・可決
	3.評議員会の目的である事項の提案について	全会一致で承認・可決
令和7年12月28日 (決議の省略)	1.第14回(令和7年度)研究助成の決定について	全会一致で承認・可決
	2.研究助成金支給規程の改訂について	全会一致で承認・可決
	3.奨学金支給規程の改訂について	全会一致で承認・可決
令和8年2月5日 (決議の省略)	1.令和7年度臨時評議員会の開催及び招集について	全会一致で承認・可決

令和 8 年 3 月 4 日	1.令和 8 年度事業計画及び収支予算について	全会一致で承認・可決
	2.令和 8 年度業務委託について	全会一致で承認・可決
	3.評議員会の目的である事項の提案及び評議員会に報告すべき事項の通知について	全会一致で承認・可決
	4.株主権の議決権の行使について	全会一致で承認・可決
	5.職務執行状況の報告について（報告）	報告事項
令和 8 年 3 月 24 日 （決議の省略）	1.公益目的事業（公 1）「(2)日本人学生に対する奨学金の支給」の改定、及び（公 2）「2.顕彰事業」の廃止について	全会一致で承認・可決

(2) 評議員会

令和 7 年 6 月 23 日	1.令和 6 年度事業報告について（報告）	報告事項
	2.令和 6 年度決算の承認について	全会一致で承認・可決
	3.役員（理事、監事）の選任について	全会一致で承認・可決
令和 8 年 3 月 4 日	1.令和 8 年度事業計画及び収支予算について	全会一致で承認・可決
	2.令和 8 年度業務委託について（報告）	報告事項
	3.評議員会の目的である事項の提案及び評議員会に報告すべき事項の通知について（報告）	報告事項
	4.株主権の議決権の行使について（報告）	報告事項
	5.職務執行状況の報告について（報告）	報告事項

なお、令和 7 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書は「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、作成していない。

Ⅲ.法人の運営体制の充実を図るための取組

1. 理事長、副理事長、常務理事と事務局の意思疎通を円滑にすることを目的として、週次で常任幹事会を開催

Ⅳ.公益目的事業継続予備財産

1. 保有の必要性

- ・ 当財団は、基本財産として保有している小林製薬株式の配当金を財源として、奨学事業と研究助成事業を展開している。
- ・ 奨学金の支給期間はそれぞれの最終課程までとしており、理由は問わず支給が滞ることは、前途有望な学生の大切な未来に多大な影響を与えることとなるため、不測の事態等により財源が確保できなくなる場合に備え、公益目的事業継続予備財産を計上するもの。
- ・ 尚、薬学関連分野を専攻する若手研究者に対する研究助成事業については、不測の事態の場合には一時休止することで対応するものとする。

2. 保有限度額

- ・ 236,400,000 円
最低限、奨学事業の年間予算を賄う金額（令和 8 年度事業計画予算額）

以上